

本調査の特徴

本調査は、保護者のしつけや教育に関する意識・実態をとらえることを目的に実施している。ベネッセ未来教育センター（調査実施時は、ベネッセ教育研究所）では、1997年と1998年にも同じ目的でアンケートを行っているが、今回はとくに1998年調査と経年での比較ができるよう配慮して調査を設計した。

＊1997年調査：年少児〔3歳児〕～小学2年生の保護者4,766人対象、『子育て生活基本調査報告書』として1998年に刊行。

＊1998年調査：小学3年生～中学3年生の保護者4,718人対象、『子育て生活基本調査報告書Ⅱ』として1999年に刊行。

本調査の特徴は、以下のようにまとめられる。

1. 時代による変化を把握することができる

本調査は、時系列で調査することを目的として企画されている。質問項目は、教育環境の変化に応じて多少の追加・削除はあるが、毎回ほぼ同一のものを使用している。今回は調査対象を考慮して、1998年に実施したときのものと同じ内容の調査を行った。また、正確な比較ができるように、首都圏のサンプルは1998年時とほぼ同一の学校に実施を依頼した。なお、1998年調査と2002年調査で対象とした学年が異なることから、経年での変化をみる際は、小学3年生～中学3年生を抽出して比較した。

2. 小学1年生～中学3年生までの学年による違いを把握することができる

今回の調査は、小学1年生～中学3年生の保護者を対象としている。そのため、学年の違いに応じて、教育に対する意識や子どもへのしつけがどのように変わるのかをとらえることができる。

3. 地域による子育ての違いを把握することができる

今回の調査は、首都圏と比較するために地方都市、郡部の保護者にもアンケートの協力をお願いした。これにより、地域による子育ての違いを把握することができる。なお、経年での比較を視野に入れている第1章～4章、6章の分析は、特別な説明がない限り首都圏のデータを用い、地域間の比較は第5章で行った。

4. 教育環境の変化に対する意識・行動をとらえるために新規項目を追加している

教育課程の変化や完全学校週5日制などの教育改革に対する意識や行動をとらえるために、学校の指導への満足度や期待、休日の過ごし方などの新規項目を追加した。

調査概要

1. 調査テーマ

小学1年生から中学3年生の子どもがいる家庭での子育て生活の実態、および、しつけや教育に関する保護者の意識をとらえる。

2. 調査方法

学校通しによる家庭での自記式質問紙調査

3. 調査時期

第1回調査 1998年12月

第2回調査 2002年9月

4. 調査対象

第1回調査

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学3年生から中学3年生の子どもをもつ保護者4,718人（配布数8,380通、回収率56.3%）。

※このうち、分析では母親（4,475人）を対象としている。

第2回調査

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、および、地方都市（四国地方の県庁所在地）、郡部（東北地方）の小学1年生から中学3年生の子どもをもつ保護者9,857人（配布数13,228通、回収率74.5%）。

※このうち、分析は首都圏の母親（6,085人）を中心に行った。

※地方都市・母親（1,438人）、郡部・母親（1,518人）のデータは、地域間比較を行う際に用いた。

※第1回調査との比較にあたっては、首都圏・小3～中3の母親（4,896人）のデータを用いた。

※経年比較が可能なように、調査テーマ・方法・対象（首都圏の協力校）は、第1回とほぼ同じである。ただし、調査項目は、時代の変化に合わせて、追加・削除などの多少の変更を行っている。

5. 調査項目

子育ての悩み・気がかり／しつけや教育の情報源／子育てで心がけていること／家庭の教育方針／子どもの日ごろの様子や生活習慣／子どもの家庭学習の様子／学習へのかかわり／学校の指導への満足度・期待／学力観・勉強観／子どもに希望する進学段階／子どもの休日の過ごし方・希望する休日の過ごし方／習い事・塾の実態／子育ての楽しさ・満足度

分析枠組みとサンプル数

今回の調査では、調査対象となった保護者のうち、首都圏・母親(2002年調査6,085人)を分析の中心とした。

分析枠組みとサンプル数は、以下の通りである。

1998年調査										
	小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	学年不明
首都圏・母親			492	510	543	585	901	806	621	17
										計4,475人
2002年調査										
	小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	学年不明
首都圏・母親	577	610	612	573	604	603	858	823	823	2
										計6,085人（うち、小3～中3生4,896人）
地域間比較 ▶										
地方都市・母親	176	224	192	184	133	192	94	118	122	3
										計1,438人
地域間比較 ▶										
郡部・母親	195	183	188	181	209	170	113	140	137	2
										計1,518人

※調査対象となった保護者の内訳は、次の通りであった。

1998年調査——首都圏—母親4,475人、その他（父親や祖父母など）210人、不明33人

2002年調査——首都圏—母親6,085人、その他（父親や祖父母など）320人、不明107人

地方都市—母親1,438人、その他（父親や祖父母など）113人、不明20人

郡部—母親1,518人、その他（父親や祖父母など）205人、不明51人

本報告書では、母親のみを分析対象とした。

※本報告書の分析では、学年の呼称を「小1生」…「中3生」と略記した。

※1998年調査については、『子育て生活基本調査報告書Ⅱ』（ベネッセ未来教育センター、1999年刊行）を参照されたい。なお、調査結果は、次のWebサイトでも紹介している。

<http://www.crn.or.jp/LIBRARY/>